

平成 23 年度第 1 回 JSR 編集委員会

日時:2011 年 4 月 21 日(木曜日) 13:00~15:00

場所:日本整形外科学会 4 階会議室

出席者:星野雄一担当理事、米延策雄アドバイザー、松永俊二委員長、笠井裕一、加藤圭彦、東永廉、長谷川和宏、波呂浩孝、平泉裕、南昌平、宮本雅史各委員

審議に先立ち、松永委員長から本委員会の開催宣言があった。

議題

1. 星野先生から理事会の報告

本委員会は年 2 回開催予定で、年次集会期間に内 1 回は開催されている。しかし、本年は web 開催となったため、旅費の支払が必要となったことが報告された。

また、JSR の刊行費用には 2010 年度 5600 万円が必要であったが、学会の財政状況から 2012 年度は 12 巻 4700 万円の経費で発行して欲しいという要望である。さらに、学会抄録集は英文の abstract があれば良いという意見が理事会で出ており、特に国際委員会としての要望が強く、アジアからの traveling fellow のためにも必要である。現実的には、大正富山製薬から毎年発行されているポケットプログラムに掲載できないか検討の余地がある。さらに、電子ジャーナル化 Paperless に向けて検討して欲しいという要望があった。また、本年度年次集会は第 40 回であり、野原会長も 40 周年記念誌を作成するというプランがあったが、現状では作成困難と考えられる。

2. 議題

1) JSR 発刊の予定(資料 1) と超過論文についての対策

CBR の島田さんから順調に発刊および準備が進行していると報告された。

しかし、第 1 および 2 号ですでに超過ページとなっている。

投稿規程にも記載されているように、和文は 4 ページ、症例報告 3 ページを厳守していただくように周知する。具体的には、第 5 号が発行される際に、学会からのお願いとして文書を送付する。

雑誌は全部で 96 ページであり、うち広告が最低 16 ページ、会則などを除いた実質の論文が掲載できるページはおおよそ 70 ページ、原著 15~16 編、1 編 4 ページと考えられる。超過 1 ページについて、15,000 円必要である。

投稿規程

抄録は、和文 200 字、英文 400 words、図表は 1 個を 400 字と換算

原著:要旨(和・英)、本文、文献および図・表をあわせて6,800字以内(仕上がりがり4頁)

総説:同上 10,000字以内(仕上がりがり6頁)

症例報告:同上 4,800字以内(仕上がりがり3頁)

・提出方法は、原稿3部(内訳:本原稿1部、そのコピー2部)、ならびに原稿データ(文書データ、図表データ)をCD-romやUSBなどに保存し、添えて提出すること。

(ページ超過に対する各学会の対応)

(東海脊椎脊髄病研究会)

依頼を積極的に行っていたので、39ページ超過となってしまった。今後は、JSR掲載分と研究会オリジナルの雑誌の2本立てであるため、今後は超過分の論文を研究会発行の雑誌に掲載する予定である。また、超過費用は学会から拠出しても良い。

(西日本脊椎研究会)

超過は研究会で負担する。この決定はすでに世話人会で承認済みである。

(日本脊椎・脊髄神経手術手技学会)

超過を学会で負担することが財政的に困難であり、査読を強化する予定である。

(日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会)

超過ページの論文は査読で指導する予定である。

(日本脊椎インストゥルメンテーション学会)

統合誌になって投稿論文数が増加しており、例年20編程度だったが、今年は37編すでに投稿されている。査読を強化するが、実際問題として適正と思われる17編以内に収めるのは困難であり、1論文4ページを厳守してもらおう。超過費用に対する学会の方針は未定である。

(日本側弯症学会)

統合前から掲載料をいただいていたため、超過論文の著者からは超過料金を課す予定である。本年の掲載論文は34編である。

(日本腰痛学会)

昨年の掲載論文は30編、本年は34編である。昨年度の論文採択率は85%であった。超過については、図表を削るなどの査読を強化する予定である。

(松永先生、星野先生)

超過は学会で負担してもらいたい。

(長谷川先生)

各学会の会員に規定のページに周知することが必要である。

(南先生)

超過対策については、各学会の理事会での議論が必要ではないか。

2) 今後の掲載論文について

3巻2号の英文抄録号については、シンポ1, 3, 4の中の優秀論文に選択された3編を除く16編に依頼する。また、3巻9号の優秀論文号については、評価点数順に1～26演題を依頼する。

原著と優秀論文号の2つの Editorial は野原裕先生(3号)と高橋和久先生(9号)とする。3巻1号の原著論文については、投稿原著が増加しているので、基本的には投稿論文を優先する(資料2)

英文抄録号(資料3)については、従来はシンポとパネルが掲載論文の対象であった。しかし、今後年次集会演題の英文抄録との兼ね合いをどうしていくか議論を要する。

3) JSR 原著論文の掲載方法について

原著論文の掲載については、原著論文号、優秀論文号、内視鏡学会号が挙げられる。現在5編待ち、査読5編がある。学会特集号に掲載していただいた際の、超過分は脊椎脊髄病学会で負担する。また、JSR 原著論文は学会特集号の中では学会分の後方に掲載とするが、日本脊椎・脊髄神経手術手技学会については持ち帰り審議となった。

4) 査読方法

英文抄録号については、投稿者は proceeding、査読者は full paper との認識という分離があった。これまで、Reject が1編ある。

(長谷川先生)

投稿規程を決めてはどうか

Proceeding を査読するのは意味があるのか？

内容までは踏み込まない

(波呂)

査読者には proceeding であることを周知する必要がある。

Proceeding に対して2ページは長すぎないか？

(松永先生)

レイアウトを、文字数も決めてしまう。

英文抄録号については、四宮先生が発案。当初、JSR を Monthly にし、一巻くらいは英文でという経緯があった。

(星野先生)

Spine への推薦制度がなくなったため、英文 full paper にしてはどうか。17編くらいが適当か。

(松永先生)

英文の内容、形体のみをチェックしてもらう

Proceeding ということ徹底する。

(長谷川先生)

引用してもらうためにも full paper が良いのではないか？

(松永先生)

座長に演題を推薦してもらう

これについては理事会でメール審議を行っていただくことになった。

5) 査読者の周知について

査読料をお支払いしていないので、JSR の査読員(資料7)としてリストを載せることとする。しかし、各学会の特集号で査読をしている委員のリストは載せられない。今年度は9号で編集後記のページに掲載するが、今後も毎年1回は掲載する。

6) 既掲載論文の PDF 掲載について

執筆者が所属する大学図書館のみ、所属者の論文の PDF 掲載を許可する。

7) 2012 年度の JSR 広告について

広告の依頼を早めに、本年度夏ころまでに行う。

8) CBR 島田さんからの詫言

三笠製薬と日本新薬の広告が掲載されなかった。

ファイザーの広告形態が間違っていた。

今後このような事故がないように注意したい。